

JACIC セミナー2014 東京「インフラ輸出に関する情勢」 開催報告

平成 26 年度第 2 回 JACIC セミナーは、平成 25 年 9 月 25 日(木)午後、東京平河町「海運クラブ」2F ホールにて以下のプログラムで開催されました。テーマは「インフラ輸出に関する情勢」というもので、現在政府が力を入れており、他産業とともに時の話題になっている題材を選びました。海外に関するテーマのため、コンサルタント・建設会社の他、社団・財団や異分野の人も含めて 124 名の参加者が集まりました。

セミナーのプログラム

開会挨拶 (JACIC 門松武理事長)

1. インフラシステム海外展開の取組とその展望
(七條牧生 国土交通省総合政策局
海外プロジェクト推進課長)
 2. インフラ輸出に必要なプロジェクトマネジメント技術
(草柳俊二 高知工科大学教授)
 3. プラント業界、グローバル化の半世紀
(丸田敬 (株)重化学工業通信社 編集長)
 4. トルコ 150 年の夢～アジアとヨーロッパを結ぶ海峡横断鉄道の建設～
(近江秀味 大成建設(株)顧問)
 5. 海外インフラビジネスへの JACIC の取組
(藤森祥弘 JACIC 審議役・海外支援室長)
- 閉会挨拶 (JACIC 山下章 理事)

1. 国土交通省の海外プロジェクト推進

国土交通省海外プロジェクト推進課の七條課長から、国土交通省の取組について、「インフラシステム輸出戦略」「ODA 大綱」の見直し、「海外建設ホットライン」「(株)海外交通・都市開発事業支援機構」などの解説がありました。

2. 海外で必要な技術

草柳教授からは、海外での技術者が求められる能力は、要素技術に加えて総合技術力が必要であり、そのためには BIM/CIM の技術は必須になるという話がありました。北欧や韓国などの豊富な海外工事や契約の例を紹介した後、BIM や欧米流の信頼性設計法が世界標準 (IS) になる日も近いと

の解説がありました。

3. プラント業界の海外事業

丸田編集長からは、プラント業界は 50 年前から海外で苦闘を続けながらも、売上は 5 倍近くになっており、その 90%以上が海外の売り上げであるという話がありました。世界情勢の波を受けながら何度も変革を遂げ、黒字体質を確保してきたとの解説がありました。そして三次元データの活用はサブコンまで含めて当然のように使用されているという話もありました。

4. トルコの海峡プロジェクト

大成建設の近江顧問からは、トルコボスポラス海峡の鉄道プロジェクトの話をお伺いしました。海流が強い場所における沈埋工法によるプロジェクトは、陸地部分で遺跡が沢山出たため、大幅に工期が遅れたとのことでした。



草柳教授の講演

5. JACIC の海外支援室

最後の JACIC の藤森審議役より、更に上流の投資家目線での解説がされた後、JACIC の海外支援室の活動について説明しました。